

「暮らし 産業 交流」 〜三つの重点戦略〜

将来都市像の実現に向けて、「暮らし 産業 交流」の三つの重点戦略により、行政・市民・地域コミュニティ、関係機関などの連携の下、分野横断的・重点的な取り組みを進めます。

戦略1 暮らし

暮らしの安心感を高める “つながり”の構築

市民の暮らしの安心感を高めるため、人と人と地域などの多様な“つながり”を強化・構築し、“つながり”を通じた支え合いの取り組みを促進します。

戦略2 産業

地域の元気と働きがいを生む 産業の創出

地域の元気と働きがいを生む産業を創出するため、多様な地域資源を生かした地域経済活性化と、市民が生きがいを持って働くことのできる雇用環境の整備を推進します。

戦略3 交流

交流圏の拡大を生かした 豊かさの向上

交流圏の拡大を生かして市民生活の豊かさの向上を図るため、交流圏域全体を見据えた交流人口の拡大と、交流による効果を市内に波及させていく取り組みを推進します。

「面・点・線」で描くまちの構造 〜土地利用構想〜

人口減少の進行や財政運営の持続性に配慮し、「面・点・線」の考え方から市民の暮らしを支える都市機能と交通ネットワークの整備を進めます。

面 盛りはりのある 土地利用

市域を地勢的特徴に応じて 区分した三つの「エリア」の考え方

多様な都市機能や優良な農地、豊かな自然を有するエリアそれぞれの特性を生かし、育む、めりはりのある土地利用を推進します。

点 暮らしを支える 拠点の構築

施設や店舗などの都市機能が集まる中心市街地や各総合事務所の周辺などの場所を「拠点」と位置付ける考え方

各地区の拠点の機能に応じ、暮らしを支える機能を維持・集積します。

線 人と物の移動を支える 交通ネットワークの構築

道路や鉄道、バスなどの 「交通ネットワーク」の考え方

拠点と市外、拠点と拠点、拠点と地区内の集落のそれぞれの間の移動が便利で安全な交通ネットワークを構築します。

地域自治を推進し すこやかなまちへ

地域自治区制度

市では、新たな自治の仕組みとして、平成17年1月の合併時に旧13町村の区域を対象に地域自治区制度を導入し、平成21年10月には合併前上越市の区域にも対象を広げ、現在、市内で28の地域自治区を設置しています。

それぞれの地域自治区に置かれた地域協議会では、区内の住民から選出された委員が、地域の課題に対してより良い解決策を導き出すため、活発な議論を行うっており、議論を契機とした住民主体のまちづくり活動が進められています。

また、話し合った内容の一部は、意見をとりまとめて市長に伝えることで、地域の声を市政に反映する取組も進んでいます。

地域協議会では活動内容を充実するため、主体的に研修や住民との意見交換を重ねていることから、市ではこれらの取組のほか、自主自立のまちの実現や地域の活力向上が促進されるよう、地域のコミュニティ活動を力強く後押ししています。



(左) 移住促進相談の会(諏訪区)では、市の地域活動支援事業を活用して当該地区への移住促進と移住を希望する人々を支援するノウハウを得るために、先進地視察を行った。
(下) 各区で定期的に行われている地域協議会では、地域に関するさまざまなテーマについて議論されている(写真は中郷地域協議会と中学生との意見交換会)。

地域の活力を向上させ、 市民主体のまちづくりを



<まちの構造のイメージ>

